１班　　部会報告書					
提案NO	福知山市の自然やコミュニティの中でしか体験できない思い出をたくさん作ることで「心の豊かさ」を育むとともに世界に向けて「発信したくなる気持ち」を育てよう			Ｒ４検討	―
提案７				Ｒ５検討	○
担当委員	土佐　祐司	眞下　眞壽美	秋山　登		
第４回	令和6年2月19日（月）	9：30～12:00	福知山公立大学　２号館１階 Ｃｏ-Ｌａｂスペース		

取組の方向性（テーマ）

Slack（スラック）を活用して「地域の人が知らない情報を地域の人が知る、教える」をコンセプトとした仮称『ふくしる』を立ち上げ、福知山市民が発信、運営できるサイトを作る。

グループワークより出てきたアイディア

・「心の豊かさ」を育むや「世界に向けて」「発信したくなる気持ち」を育てようというにテーマが広い。テーマを絞り込む必要がある。
・地域の人が地域の情報・文化を知る方法を考えていかなければならない。
・元伊勢等、観光地として非常に魅力的。その魅力が伝わっていない。
⇒SNSを活用したPRの方法を検討していくのはどうか。

取組の方向性（取組の内容）

【取組の内容】
Slack（スラック）を活用して「地域の人が知らない情報を地域の人が知る、教える」をコンセプトとした仮称『ふくしる』を立ち上げ、その中でコアな情報や自身しか知らない体験、発見を掲載することで新しいコミュニケーションの形をつくる。
⇒地域の情報を「発信したくなる気持ち」を育てる。

【メリット】
コアな情報を掲載することで福知山に興味がある人を取り込むことができる。
他のSNSのように情報が流れることなく、情報がとどまりやすい。
市民同士、市民と市外の方でのコミュニケーションが可能
SNSの活用により現在行っていたりする祭りの案内等の絵はがきを投稿することで広告の経費削減になる。

【取組の課題】
（１）「誰」が実践していくか
土台となるSlackの運用・立上げについては、福知山公立大学生や市民の公募にて運営側の人員を行政が募集する。公募した委員で運営を行うこと。
⇒自ら発信したいという思いがないとダメなので、公募が望ましい。
それも年齢により、興味や目線も違うので、年齢層も幅広く公募する必要がある。

（２）ユーザー数への課題
広報「ふくちやま」による募集や市ホームページ等を活用し、募集を行う。
ユーザーの募集だけでなく、自治会でのイベント等の発信には自治会との連携が必要と考えられる。

（３）運営の基本方針について
不平不満を投稿する場にならないようにする必要がある。
発信の仕方は、高校生や大学生と一緒に考えることで若い感性を入れる必要があるため運用、立ち上げには高校生や大学生に参加してもらう。

２班　　部会報告書					
提案NO	福知山市の魅力、強みを生かして、儲かる観光業、農林畜産業をめざして盛り上げよう			Ｒ４検討	○
提案１２				Ｒ５検討	○
担当委員	衣川　裕次	杉山　俊輔	小林　加奈子	古川　昌宏	
第４回	令和6年2月19日（月）	9：30～12:00	福知山公立大学　２号館１階 Ｃｏ-Ｌａｂスペース		

取組の方向性（テーマ）

訪日外国人客に向けた周遊プランを活用した観光業・農林畜産業の活性化

グループワークより出てきたアイディア

【現状】
新型コロナウイルスの影響で落ち込んでいた訪日外国人旅行者が新型コロナウイルス感染拡大前の水準まで回復
【考察】
・旅行の目的が観光から体験へ変化しているのではないか。（高級旅館に宿泊する等）
・来日が2回目以降になるとゴールデンルート（東京や富士山、京都、大阪）ではなく、東北やスキー等のニッチな箇所を訪れるのではないか。その際に福知山（北近畿）という選択肢を持ってもらう。
【提案】
・周遊プランの作成
→周遊プラン作成のためのコンテンツの募集

取組の方向性（取組の内容）

【取組の内容】
●周遊プランはあくまでも市民（民間）が主体で行う。行政は、周遊プラン実現に向けたハード面や補助金等の補助を行う。
●周遊プラン作成に向けたコンテンツの募集
・歴史のルーツ
・福知山の文化
・福知山の食事（食材）
・福知山でできる体験
●福知山市在住の人から意見を募る
→市民からの募集
→福知山市在住外国籍の方への聞き取り（両親に福知山市を案内するならどこを紹介しますか等）

【今後の課題】
・募集の方法や募集した後、誰がどのように周遊プランを組み合わせるのか。
・障害者への対応も考慮してもよいのではないか。（障害者を対象とした周遊プラン等）
・旧三町（三和・夜久野・大江）における観光協会等との連携
→現状、各々が情報発信しているため、一元化する

３班　　部会報告書					
提案NO	担い手が少なくなってきた時代に対応し、自治会などの活動を見直し、開かれた運営を行っていこう			Ｒ４検討	○
提案１４				Ｒ５検討	○
提案NO	「やらなければならない」地域活動から「やりたい人がやりたいことをやる」地域活動へ変えていこう			Ｒ４検討	―
提案１５				Ｒ５検討	○
担当委員	谷垣　均	田村　卓巳	渋谷　節子	仁張　衛	
第４回	令和6年2月19日（月）	9:30～12:00	福知山公立大学　２号館１階 Ｃｏ-Ｌａｂスペース		

取組の方向性（テーマ）

防災をはじめとした地域の安心安全を守る取組みの実施

グループワークより出てきたアイディア

・自治会活動は住民の安心安全を守るような「やらなければならないこと」と懇親を目的とした「やりたいこと」の2つがある。
・安心安全の観点だと、防災の取組は子どもや高齢者の見守りにつながるため、効果的だと考える。また、福知山市は防災意識が高く、先進的な取組もしているため、モデル自治会をつくって全国的なPRもできるかもしれない。
・懇親を目的とした活動として、お祭りなどがあるが、小さくても良いから年に1回実施している地域は、住民同士で顔を合わせる機会になっており、どんな人が住んでいるかも分かり、コミュニティとしても強くなっている。
・顔の見える関係性を作ることが大事。
・外の人が集まってできた比較的新しい地域で、伝統的な福知山踊りが定着しており、地域で３代に渡って連を出すなど、文化的な活動が学区活動の根幹になっている地域もある。
・１学区１物語のような地域の歴史や昔話をまとめる活動があると、地域のことを知ることにつながり、歴史を大事にした防災活動にもつながっていくのではないか。
・自治会は、防災や見守り等の生活に関わる様々なことを担っているが、普通に生活をしていると実感する機会が少ない。そのような実感を持ってもらう場を作ることが重要だと思う。
・複数の自治会が協力して防災の取組を実施するなど、自治会同士の連携で機能維持も考えられる。

取組の方向性（取組の内容）

取組の概要

①自治会がどんなことをしているのか、加入のメリットを記したチラシを作る。

②防災など安心安全な暮らしの役割を果たす取組を中心に実施する取組を見直す。

③複数の自治会で協力して地域のお祭りなどを合同で実施する。

④美化活動の実施後に、懇親の機会など楽しみを共有できる場を作るなど
気軽に参加でき、話ができる機会を作る（サロンや道端でコーヒーを飲む等）。

⑤福知山市内で先進的な取組をしている自治会をテーマや世帯ごとにまとめた
冊子を行政と一緒に作り、他の自治会運営の参考にできるようする。
例：広報誌として自治会に配布、新聞やメディア等の民間との連携も実施する。

⑥地域の学生等が活動できる受け皿を作り、発信する。

４班　　部会報告書					
提案NO	一人ひとりに寄り添ったきめ細やかな相談、支援をできる体制を、地域包括支援センターを中心につくろう			Ｒ４検討	－
提案２０				Ｒ５検討	○
担当委員	和田　理恵	山地　奈津美	芦田　育美		
第４回	令和５年２月１９日（月）	9:30　～12:00	福知山公立大学　２号館１階 Ｃｏ-Ｌａｂスペース		

取組の方向性（テーマ）

地域包括支援センターの認知度を上げて誰でも相談できるようにしよう

グループワークより出てきたアイディア

・地域包括支援センターが誰でも、何でも相談できる場所であることを伝える。
・地域包括支援センターの認知度を高めるために、チラシ等の媒体を使って地域に広める。
・困りごとを抱えている人を見つけたら、地域包括支援センターの相談に繋げられる地域の人を増やす。
・日頃からのあいさつや声掛けにより、地域の人同士のつながりを深める。
・生きがいづくりや健康寿命を延ばすために、元気な人が活動できる場として、地域の中で、年齢を問わず誰でも集って何でも話せる場所があればよいと思う。

取組の方向性（取組の内容）

①地域包括支援センターの認知度を高めるために、チラシを作成したり、市のホームページを充実させる。
・チラシの作成は、地域包括ケア推進課において今年度中に作成する。
　来年度、地域包括ケア推進課や地域包括支援センターが、多くの人が集まる店舗や地域の集会所、ごみステーションなど地域の施設にチラシを置いてもらったり、掲示してもらうよう依頼する。また、移動販売業者にもお客さんへのチラシの配布を依頼する。
　地域の住民には、チラシを見ることによって、地域包括支援センターのことを口コミで広めてもらう。
　市のホームページにもチラシを載せたり、いろいろな情報をアップできるようにするとともに、市のホームページのＱＲコードを記載し、誰でもすぐ見てもらえるようにする。（市外への発信にもなる。）
　地域包括支援センターにおいても、定期的に「おたより」を発行し、情報提供に努める。
　こういった取り組みで、地域包括支援センターが誰もがいつでも相談できる場であることを周知する。
②日頃から地域の人同士のつながりを深める。
　まずは、自分から挨拶や声掛けをしていく。
　困った人を見つけたら地域包括支援センターに連絡してほしいので、チラシの中に「気になる人がいれば教えてください。」といった内容を入れる。
③地域の中で、年齢を問わず誰でも集って何でも話せる場所をつくる。（将来的に）
　どうしたら作れるのかわからない人もいるため、こういったことも地域包括支援センターに相談できることを周知する。
　やる気のある人と地域包括支援センターが繋がって誰もが集まれる場所ができてほしい。
※部会５班とは同じような内容を検討しており、また、他の部会ともつながりが見いだせるのではないかと考えるため、他の部会とも交わっていきたい。

５班　　部会報告書					
提案NO	独居高齢者、老々介護、介護離職など、様々な介護の事情や社会生活環境の変化をふまえ、担い手の多様化と地域での支え合いの仕組みをつくろう			Ｒ４検討	－
提案２１				Ｒ５検討	○
担当委員	浅野　美誉子	大槻　泉	西濵　早織		
第４回	令和６年２月１９日（月）	9:30～　：	福知山公立大学　２号館１階 Ｃｏ-Ｌａｂスペース		

取組の方向性（テーマ）

「楽しい！」で繋がる、新しい交流のカタチ

グループワークより出てきたアイディア

「やらなければならない」から「やりたい！」へ
⇒地域の集まりといえば、自治会、サロン、老人クラブなど。近年は加入者が減少しており、その大きな要因の一つが「負担感」。何かに所属すれば役を担わされたり、責任が生じたりする「負担感」から参加を避けがちに。負担のない活動にするためには。

「楽しい！」を原動力に
⇒多様性が叫ばれる昨今、インターネットやSNSの普及により価値観も多様化。個々人の活動範囲も学校、職場、近所から全世界に広がった。それぞれが「楽しい！」と思える活動に参加できることが理想。地縁だけにとらわれない交流の場を考えられないか。

「おせっかい」が地域を救う!?
⇒情報化社会のなかで情報弱者ともいわれる高齢者。受けるべきサービスを受けないで負担になっている場合もあるのでは。地域のおせっかいさんが広める口コミやお誘いが地域全体に広がり、住民全体で支え合う地域を実現できないか。

取組の方向性（取組の内容）

以下の取組について提案を行った。
１　地域を超えた集まりつながりの場の創出
・地縁ベースの集まりから、地域を超え、好きなことをする人の集まりを創出。
・市内のサロンで交流会を実施。それぞれの活動内容を紹介するなど、新しいつながりの場を創出。それぞれの取組をつなげるマッチングを行う。
・市内各地域から人と情報が集まり、そこで得た情報は地域に持って帰り、口コミで地域に還元。情報の循環を生む。

２　リーダーや役を作らない新しい集まりの場の運営の創出
・ある地域のサロンではリーダーを決めずに運営。リーダーを決めるとその人の負担や責任が生じるため、皆で好きなことをアイデアを出し合って決めている。
　できる人がやる、できないことはやらない。
・上記のようなモデルケースを市内のサロンや団体にも紹介するため、運営方法や取組内容をまとめた広報物を作成し、関係団体にも御協力いただきながら配布や周知を行う。

別班　　部会報告書					
提案NO	市民の参画の状況把握及び改善をすすめよう			Ｒ４検討	－
－				Ｒ５検討	○
担当委員	水口　一也	松本　清香	松井　裕督		
第４回	令和６年　２月１９日（月）	9:30～11:30			

取組の方向性（テーマ）

１．自治基本条例を市民に広く知ってもらう。
２．自治基本条例の目的・意義を、市が理解し、日々の業務に反映する。
３．自治基本条例推進委員会の目的（Mission）を提案する

グループワークより出てきたアイディア

【目指す未来像】
主体的にまちにかかわる市民が増えていくまち
【まず取り組むこと】
多くの市民、そして市議会及び市の執行機関に自治基本条例の理解を深める取組を進める
【主要なターゲット層】
次世代を担う、若い世代
【ターゲット層へのアプローチ方法】
知ってもらうため、より理解を深めてもらうためには、世代ごとに、アプローチ方法を変える必要がある。

取組の方向性（取組の内容）

【未来像を実現するために、自治基本条例推進委員会の目的の提案】
「市議会及び市の執行機関が自治基本条例を理解し推進しているか、状況把握と改善」
「多くの市民 に自治基本条例を周知する」
「条例が目指すその先について、時代と共に、世代の違いも越え、市や市民と共有しながら、見直していく」
【具体的に本委員会で取り組むこと 】
１（市役所内に向けて）
○条例に基づいた取組が行われているか、運用状況の確認（定点観測）。
○市が設置する各委員会における市民公募委員の参加状況や、会議の公開状況の他、市政に関する市民への情報提供の状況等の確認及び助言。
２（市民に向けて）
○継続的で効果的な周知方法への助言等。
３（２と関連して）
○住民自治又は市民協働の見える化への助言及び情報提供。

【市事務局がやるべきこと 】
１　自治 基本条例について委員が学べる機会を提供。 例：読み合わせ の実施や専門家の 招致等）
２　条例の推進状況について、委員 に分かりやすい 現状の 報告。 （例：具体的 な事例紹介等）

■　アプローチ方法の提案　■

対象：中学生
【アプローチ方法 】広く知ってもらう周知方法
【具体的に何をするか 】
・子ども向けのパンフレットを作り、学校に設置してもらうなど、手に取ってもらいやすい環境を作る。
・条例について学べる動画を作成し、出前授業などで活用できるようにする。

対象：高校生
【アプローチ方法 】深く学べる機会の提供
【具体的に何をするか 】
・まちづくりについてのワークショップを開催し、大人だけでなく高校生にも参加してもらう枠をつくる

対象：20歳
【アプローチ方法 】20歳を祝う会を活用
【具体的に何をするか 】
・条例についての分かりやすいチラシを配布
・まちづくりにかかわりたい人をつなぐSNS

対象：30歳　（仕事や家庭についてこれからを考える世代）
【アプローチ方法 】「三十路の会」など会う機会 を作る
【具体的に何をするか 】
・まちづくりについてざっくばらんに話せる場、交流会などの実施（まずは同窓会のように集まれことができ、そこで今のふるさとについて知ることができる場）

対象：40～50歳　（社会の中核を担う重要な世代）
【アプローチ方法 】みんなでつくる福知山カレッジ
【具体的に何をするか 】
仮称　みんなでつくる福知山カレッジ事業
市、市民が一緒に学び合い、お互いを認め合い、より良い福知山を目指す学びの場づくり
⇒各世代、各団体のプラットフォームへ発展